

子供が主役 主体性・創造性を育む学校教育



I 確かな学力

II 豊かな心の育成



I 確かな学力

～「教える」から「学ぶ」授業へ～

GIGAスクール構想事業

(1) 環境整備



- ①GIGA端末の新規入替（小1～中3）
- ②学習者用机拡張天板導入
- ③ミライシード
 - ・オクリンクプラス（小1～中3）
 - ・テストパーク（小4～中3 算・数 理）
 - ・ドリルパーク（小1～中3 国 算・数 理 社 英）
 - ・まるグランド（小1～小3）
- ④Ai grow lite（小5～中3）
- ⑤Canva導入



(2) 教職員研修



- ①熊本県山江村の小中学校訪問事業
 - ・各校3名 教育委員会 運営支援センター
- ②夏季休業中の学力向上研修会講師招聘・ICT研修会
 - ・ベネッセ教育総合研究所 主席研究員
 - NITS独立行政法人教職員支援機構 フェロー 山下 真司 氏
（文部科学省マイスターハイスクール伴走支援事業 外部アドバイザー）
- ③石川県 庄小学校とのオンライン交流事業
 - ・千綿小学校を中心として
- ④4者連携事業によるプログラミング教育（ペッパーくんを活用した授業実践）
（教育委員会・Q-bicソリューションズ・V・ファーレン長崎・ソフトバンク）
 - ・ICTアドバイザーの委嘱 ○福浦直樹氏 ○土井圭次郎氏
- ⑤4者協定によるデータ活用事業
（町・教育委員会・Q-bicソリューションズ・NTT西日本）

(3) 英語力向上



- ①西南女学院大学 西原真弓教授による年2回（小1回、中1回）授業研究会の開催
- ②学力向上研修会 第3部会（英語部会）による授業研究
- ③英語・外国語推進会議

(4) 町学力調査



12月に実施 小1～中2 教科（小学校 国・算）（中学校 国・社・数・理・英）

Ⅱ 豊かな心の育成

～多様性の中で、他を尊重し対話できる子ども～



1 自立適応支援 活用事業

- (1) 確かな一歩事業の活用（県の補助事業）
- (2) 各学校、SSW、SSR支援員、児童民生委員等関係機関との連携

2 SSR（校内スペシャルサポートルーム）支援員活用事業

- ・文科省、県の補助事業：2校に開設

3 特別支援教育等各種指導員・支援員拡充配置及び研修事業

- ・千綿小 3名 彼杵小 10名 東彼杵中 7名
- ・年1回 研修会の実施

4 SC・SSW活用事業

- (1) 小4・中1の全員面談
 - ①5月 千綿小（報告 6月） ②6月 東彼杵中（報告 8月）
 - ③9月 彼杵小（報告 11月）
- (2) 小5・中2のフォロー会議
 - ①5月 千綿小 ②6月 彼杵小 ③8月 東彼杵中
- (3) SCによる中1への授業
- (4) 自立適応支援員も含めたケース会議、対策会議

5 ICTを活用した心のチェック

- (1) Ai grow liteの活用・・・小5～中3実施
 - ・小学校から中学校への円滑な引継ぎ

6 不登校対策関連連携事業

- (1) 役場子ども健康課・町民課との連携

「教育の町 東彼杵」

「教育の町 東彼杵」が町内外に広く認識され、子どもたちから、現在、将来において、よい教育を受けていたと感じてもらえるような教育を推進したい。

予測できないこれからの社会を生きていくためには、社会の変化に受け身ではなく、主体的に向き合い、創造力を働かせ、よりよい社会と幸福な人生を自ら創り出していくことが重要である。そのためには、自分の頭で考え、判断する力が必要であり、それを育む学校教育を推進していかねばならない。授業においては「個別最適な学び」「協働的な学び」の授業を推進し、現行の学習指導要領の基本的な考え方である「主体的・対話的で深い学び」の授業を実現し、「教える授業」から「学ぶ授業」への転換を図ることが、確かな学力を保障することに繋がる。また、複雑で多様な価値観が存在する社会を生きる子どもたちにとって、学校という集団の中で学ぶことにより、これから必要とされる「多様性の中で、他を尊重し対話できる子ども」を育むことができると考えている。教師主導ではなく、自己決定を促す主体性・創造性を育む、子どもが主役の学校教育活動を推進し、児童生徒の自己有用感や学校への所属感を高め、安心して過ごせる居心地のよい学校になるよう学校を支援、指導し、環境整備を行っていく。

令和7年3月 東彼杵町教育委員会

